

平成28年度 第2回安曇野市社会教育委員の会議 会議概要

- 1 審議会名.....第2回安曇野市社会教育委員の会議
- 2 日 時.....平成28年10月6日(木) 午前9時30分から午前10時30分まで
- 3 会 場.....安曇野市役所 共用会議室305
- 4 出 席 者.....細田利章委員、平田米子委員、小穴廣光委員、荻原義重委員、細野修市委員、三澤知子委員、山崎敦子委員、平倉勝美委員、浅見郁子委員、宮川智江古委員
- 5 市側出席者.....橋渡教育長、山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、社会教育担当藤森係長、社会教育担当臼井主査、社会教育担当中村主任
- 6 公開・非公開の別.....公開
- 7 傍聴人 0人.....記者 0人
- 8 会議概要作成年月日.....平成28年10月7日

協 議 事 項 等

【会議概要】

- 1 開 会.....生涯学習課蓮井課長
- 2 あいさつ.....細田議長、橋渡教育長
- 3 協議事項
 - (1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画の策定について
 - (2) 第1次計画施策指標の問題点及び施策指標変更の検討について
 - (3) 市民アンケートの確認
 - (4) その他
- 4 閉 会.....生涯学習課蓮井課長

【協議事項】

- (1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画の策定について
《社会教育担当藤森係長より説明》

(委員)

現在の生涯学習推進計画の計画期間は平成29年度までとありますが、計画のみで実施はしていないということでしょうか。

(事務局)

計画期間が定められ、計画に基づき事業を実施しています。生涯学習推進市民会議において、事業の取組状況など、進捗を確認しています。

(委員)

生涯学習推進市民会議の際に実施された結果がわかるということでしょうか。

(事務局)

進捗状況の確認については、計画にそれぞれの施策の指標数値目標が定められています。目標とする指標値に対して平成28年度は進捗しているかどうかを生涯学習推進市民会議において確認していただきます。

(委員)

社会教育委員の会議が生涯学習推進市民会議を兼ねるということですが、社会教育委員の他にも委員を入れるのでしょうか。

(事務局)

平成29年度に限り社会教育委員のみで構成し、他の委員が入るということはありません。平成29年度から設置する計画策定委員会では、公募を行い市民の方にも委員会に入っていただく予定です。

(委員)

例えば、公民館運営審議会などから代表者だけでも入るということではできないのでしょうか。

(事務局)

今までは、公民館運営審議会や図書館協議会などの委員に、生涯学習推進市民会議の委員を務めていただきました。ただし、今回につきましては計画策定年度に当たり会議内容が重複するため、社会教育委員に生涯学習推進市民会議の委員を兼ねていただきます。

(委員)

資料のスケジュールを見ると、生涯学習推進市民会議は平成28年7月の1回しかありません。

(事務局)

平成29年5月に開催する社会教育委員の会議を生涯学習推進市民会議として行います。進捗管理は年に1回です。

(2) 第1次計画施策指標の問題点及び施策指標変更の検討について

(3) 市民アンケートの確認

《社会教育担当中村主任より説明》

(委員)

施策指標の算出根拠と具体的な算出方法を教えてください。

(事務局)

数値は、各年度に実施した数を取りまとめ、算出しています。

例えば生涯学習講座数は、社会教育委員の会議での事業報告書からそれぞれの講座数を積算しています。一つの講座をシリーズで開催している場合は、1と数えています。

(委員)

算出した数字をどのように比較するのでしょうか。何か基準があり、それより多ければ満足しているというように判断するのでしょうか。

(事務局)

指標値は指標値で、アンケートは市民が実際に感じていることを把握するためのものです。

(事務局)

現計画では生涯学習講座数などの数値目標を定め、施策を進めてきました。しかし、回数で評価することが果たして良いのかという問題があります。その判断をするために、今回アンケートを実施し、第2次計画における施策指標設定の材料とします。

(委員)

来年行われる生涯学習推進市民会議でアンケートの結果を見て、判断する資料にするということでしょうか。

(事務局)

生涯学習推進市民会議は、現計画について指標数値に基づき進捗管理を行うものです。アンケートは、第2次計画策定のために行います。現計画の施策について数値ではなく市民アンケートで評価してもらうことで成果を測り、満足度と重要度を把握し、第2次計画の施策内容に反映していくという目的です。

(委員)

策定委員会でアンケート結果を示すということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。策定委員会だけでなく、社会教育委員の会議でも報告します。

(委員)

アンケート問18の設問番号21と22について、「市内には音楽や演劇などの公演を鑑賞する施設が整っている」「様々なニーズに応じたスポーツ施設が整っている」は「整っていない」という回答が明らかだと考えますが、どのような意図で聞いているのでしょうか。

(事務局)

現在の施設の整備状況について、客観的に判断してもらうための設問です。

(事務局)

現在、文化芸術施設、スポーツ施設、公民館は改修工事が終わってきています。具体的にどの施設ということではなく、あくまでも市全体として市民の方がどう感じているのかを把握するためです。

(委員)

市民はそこまで意図を読み取れないと思います。単純に、鑑賞する大きな施設として松本の市民芸術館や、体育館を想像すると思います。そういう施設はいらないという結果になることを考えて尋ねているのでしょうか。

(事務局)

そのような意図ではなく、現計画にある施策の「スポーツ施設の必要性に応じた整備・充実」について尋ねている設問です。今回の会議では、アンケートの設問の表現について意見をいただき修正したいと考えています。

(委員)

アンケートを採る際に計画の冊子が添付されないのなら、わかりやすい、誤解のない表現にしたいと思います。

(委員)

片仮名が多用されていますが、マネーライフプランやフリーペーパー、ニーズといった言葉は年配の方にはわからないのではないのでしょうか。カッコや注釈を入れれば回答しやすいと思います。

(委員)

問5で生涯学習の意味を問う設問がありますが、「何となくはわかる」と答えた人も問9や問10の生涯学習の方法や内容についての選択肢を見て、生涯学習とは何かわかる人がいると思います。問8の生涯学習の頻度を訪ねる質問は、後ろの方にした方が答えやすいと思います。

(委員)

問4の職業を尋ねる設問について、介護の有無を調べる必要があるのではないのでしょうか。介護をしていると答えた方には、自宅で介護しているのか施設なのか回答してもらい、こういった数値を踏まえた上で計画の内容を充実させ、参加しやすい対策を考えていかないといけないと思います。

(事務局)

問14に生涯学習に取り組むことの妨げになっていること、あるいは取り組めない理由を尋ねる設問があります。その中で選択肢に「家庭の事情」があります。こちらを改良することで対応できるかと考えます。

(委員)

問14の選択肢「時間がない」「家庭の事情」だけではどういった事情かわかりません。自由記述だと多くの人は記入しないと思いますので、丸を付けてもらうという方が調べやすいと思います。

(事務局)

選択肢を設けるなどして、問14を改良します。

(委員)

問13、14、15の、新たに学びたい分野、生涯学習に取り組むことへの妨げ、学んだことを何に役立てたいか問う設問は、これからの計画策定において非常に重要な位置を占めていると思います。現計画では登録博物館等利用者数や体育館利用者数の数値が掲載されていますが、他市では図書館の利用者数が20パーセントということを知ったことがあります。施設そのものを充実させるだけでなく、現存の施設や生涯学習の場の利用状況というものを、もっと高めていく必要があると思います。そのために問13、14、15で聞いているこれからの要望については、とても大事になってきます。問14はもう少し設問をわかりやすくして、要望に対して回答者がどんな対応策を考えているかも把握できれば今後に生かせると思います。

(委員)

問15について、自らの生きがいをづくりのために生涯学習を役立てたいという人は、どの選択肢を選べば良いのでしょうか。

(事務局)

自己の部分で留めているということで、「生きがい」といった方もあると思います。改良を行います。

(委員)

アンケートの最終案は確認することはできるのでしょうか。

(事務局)

修正し、送付します。

(委員)

調査対象は性別、年齢層別に無作為抽出され、2,500人とあります。10年間の計画を立てる中で5年単位の見直しを行うと思いますが、10年後の安曇野市の様相はかなり変わってきます。今回アンケートを行う際に、対象者の年齢層の割合をどのように考えるのでしょうか。例えば高齢者と小学生では、10年後という大きく変わってくると思います。

(委員)

10年先というと、団塊の世代は70歳位になり、子どもたちの数も減っていきます。生涯学習を考える上で、人口割合が大きな問題になると思います。今回指標を変更するというので、とても大事なところに目を付けたと思います。目標の在り方も考えていかなければならないし、アンケートの対象をどうするかということも、これからを見据える上で大事なことです。また、今まで公民館を利用して一生懸命活躍してきた人ができなくなるということもあります。大きな転換期だと思いますので、考えて進めていってほしいです。

(事務局)

アンケート対象者の抽出方法は、調査時点における年齢の分布の構成員に対する割合に応じた数で無作為抽出します。今の時点での何歳の方がどう考えていたのか、それが5年後10年後にどう変化するかを捉えるためにも重要だと考えます。そのため、アンケート実施時点での年齢で調査をする必要があります。また、子どもたちの人口が減っていくということについて、今回のアンケートでは設問に答えられる年齢を調査対象とします。ただし、生涯学習推進計画においては幼年期に関する施策を考えていく必要がありますので、今回の計画の見直しに伴う指標の検討や第2次計画策定の段階で盛り込んでいきます。

【終了】